

まきりは

VOL.36
2026年5月



特集

開設20周年記念スペシャルインタビュー

社会医療法人 ONE FLAG
理事長

牧リハビリテーション病院
院長

牧 恭彦 — 泰永 募

これまでの軌跡とこれからの未来図

CONTENTS

特集：スペシャルインタビュー … P2・3

Medical for Happiness … P4

Topics「お花見イベント」「新入職員紹介」… P5

訪問リハビリテーション Diary … P6

デイケア Newsletter/News … P7



これまでの軌跡とこれからの未来図

社会医療法人 ONE FLAG 理事長

牧 恭彦

牧リハビリテーション病院 院長

泰永 募

クオリティとチーム力で高めてきた リハビリテーション専門病院としての「ブランド力」

牧理事長 振り返ると、この20年は走り続けてきた年月でした。建設予定地にはレンコン畑が広がっていて、何もないところからのスタートでした(笑)。開設に向けては、立ち上げメンバーとともに全国のリハビリテーション病院を見て回り、これからの回復期医療をどう形にするか学び続けました。開設当初は、地域の病院との関係づくりも大きな課題でしたが、患者さんをご紹介いただくためのネットワークづくりが、今の地域連携につながっていますね。若いスタッフが中心の組織でしたが、熱意があり、地域に必要とされる病院を育てていこうと歩み始めました。



泰永院長 私は2019年から勤務していますが、当院とはご縁があり、患者家族として訪れたのが始まりでした。スタッフの温かい対応が印象的で、法人理念にある「Medical for Happiness」の思いが現場に根付いていると感じ、院長就任のお話も喜んでお引き受けしました。着任後はコロナ禍という大きな出来事もありましたが、スタッフが心を一つに、力を合わせて乗り越えました。理事長の思いは今もしっかり受け継がれていると感じています。

牧理事長 開業当初から大切にしてきたのは、「リハビリテーションの質」と「チームづくり」です。専門資格の取得など、スタッフ一人ひとりのスキルアップを重ねた結果、北河内圏域でリハビリに特化した病院と自信を持って言える組織になり、地域の回復期医療のレベルアップにもつながったと思います。

泰永院長 個々の力を高めながら、チームとしての連携も大切にしてきました。多職種で丁寧に向き合う姿を見ると、スタッフには感謝の気持ちしかありません。

牧理事長 20年の歴史の中でメンバーは変わっても、患者さんをチームで支える文化は変わっていません。それが当院の強みだと思います。これからもスタッフと力を合わせ、この病院らしい温かい医療を続けていきたいですね。



地域とともに歩んだ20年 感謝を伝える記念式典を開催

牧理事長 今年1月31日には20周年の記念式典を開催しました。連携する地域の先生方や当院のスタッフなど約180名の方がご参加くださいました。

泰永院長 直接顔を合わせてお話しできる、まさに“顔の見える関係”を感じられる時間となりました。会場では、開設からの20年を振り返る動画も上映され、ともに歩んできたデイケアや関係機関の皆さま、地域活動の様子が紹介されました。昔の写真が映ると、会場からは笑い声や懐かしむ声が上がっていましたね。

牧理事長 入院機能を中心とした病院のため、地域との関わりには工夫を重ねてきました。「看護の日」「介護の日」「まきりは連携の会」といった院内イベント、スタッフが出向く「RUN伴+門真」など、どの行事も地域の方々と交流する大切な機会となっています。

泰永院長 こうした積み重ねが、地域の皆さまとのつながりを深めてきたのだと思います。

牧理事長 今回の記念式典は、これまで支えてくださった方々への感謝を改めて実感する機会になりました。そ



開設20周年記念式典の様子

して、これからも地域の皆さまと共にこの病院を育てていきたいと改めて感じる時間でした。

これからの時代に求められる 暮らしを支えるリハビリ医療

泰永院長 少子高齢化が進む中で、回復期リハビリテーション病院の役割はますます重要になってくるでしょう。ヤングケアラーや老々介護など、ご家族だけでは支えきれないケースも増えています。だからこそ、専門性を高めながら、患者さんの生活を支える医療の重要性が一層高まると思います。

牧理事長 当院では早くから通所リハビリや訪問リハビリなど、退院後の暮らしまで見据えた支援の仕組みづくりに取り組んできました。法人全体でも訪問診療・看護・介護を含め、地域の中で医療と介護がつながる体制を整えています。リハビリテーションの需要が高まり回復期病院も増える中、私たちらしさをどう出していくかが大切だと感じています。



開設20周年記念式典の様子

泰永院長 これからの10年に向けては、大阪でもトップクラスの回復期リハビリテーション病院をめざしたいと考えています。認定看護師や認定療法士など専門資格を持つスタッフを増やし、さらに専門性を高めていきたいですね。そのために院内勉強会や学術活動を充実させ、学会発表や論文作成にも積極的に取り組んでいきます。

牧理事長 リハビリの専門家として地域を支え、患者さんやご家族に選ばれる病院であり続けてほしいと思います。また、スタッフにとっても働きがいのある場所であってほしいですね。当法人の理念である「Medical for Happiness」の旗のもと、これからもチーム一丸となって、地域に貢献できる病院をめざしていきたいと思っています。

Medical for Happiness

—一人ひとりの幸せな人生を支えるために—

[今回のテーマ] Team | 可能性を信じて、想いをつなぐ

身体を思うように動かさず、声を出すこともできない—その患者さんは、「伝えたい思いがあるのに伝えられない」というもどかしさと向き合っておられました。私たちは、その想いを何とか形にしたいと考えました。

しかし、新しいコミュニケーション手段の導入は、決して簡単な道のりではありませんでした。機器の選定や調整、体調との兼ね合いなど、多くの課題がありました。思うように進まず、立ち止まりそうになる日もありました。それでも、チーム全員が「まだ可能性はある」「きっと想いは届けられる」と信じ、あきらめずに挑戦を続けました。

試行錯誤を重ねた末、視線で操作する機器を使い意思

を伝えられるようになった日。初めて想いが形になった瞬間、患者さんは静かに、そして大きな涙を流して喜ばれました。その姿を見守るご家族の安堵と喜びの表情も、私たちの心に深く刻まれています。

この一歩は、誰か一人の力では成し得ませんでした。可能性に気づき、方法を探り、環境を整え、日々寄り添い続けた仲間たち。そして何より、あきらめず努力された患者さんご自身。皆がそれぞれの役割を超えて想いを重ね、和をもった信頼されるチームとして関わったからこそ、生まれた成果です。

私たちはこれからも、一人ひとりの幸せな人生を支えるため、可能性を信じ、想いに寄り添い続けます。



TOPICS 1

お花見イベント開催

牧リハビリテーション病院では、昨春より季節のイベントとしてお花見を開催しています。今年は当院に隣接するラクタドームにて行い、患者さん72名と8組のご家族にご参加いただきました。

当日は、患者さん一人ひとりの身体機能に応じて看護職・介護職・セラピストが付き添い、医師も同行するなど、安心して外出を楽しんでいただけるよう配慮しました。

桜の下では、温かい飲み物やおやつを手に、会話や写真撮影を楽しみ、笑顔あふれるひとときとなりました。患者さんからは、「きれいやね。入院中に桜が見られると思わなかった」「風や陽の光を感じられて気持ちいい」といった声も聞かれています。

ご家族とともに過ごすことで患者さんの笑顔は一層広がり、職員にとっても春の訪れを感じられる温かい時間となりました。今後も、患者さんが心から楽しめるイベントを企画してまいります。



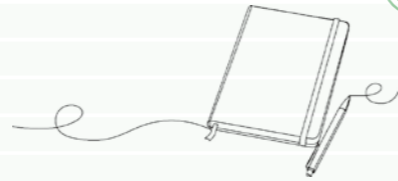
TOPICS 2

新入職員紹介

新年度を迎え、今年も新たな仲間が加わりました。リハビリテーション部に理学療法士5名、作業療法士3名、栄養科に管理栄養士1名、総勢9名の新入職員です。医療の現場では、多職種がそれぞれの専門性を発揮しながら連携し、患者さんの回復を支えるとともに、その後の生活を見据えた支援を行うことが求められます。新入職員も患者さん一人ひとりに寄り添いながら専門性を高め、チームの一員として役割を果たしていきたいという思いで当院の仲間となりました。新たな視点と活力が加わることで、職員同士の連携がさらに深まり、より質の高いチーム医療につながることを期待しています。これからも地域の皆さまや関係機関と連携し、質の高いリハビリテーション医療の提供に努めてまいります。今後とも牧リハビリテーション病院をよろしく申し上げます。



訪問リハビリテーション Diary



挑戦の先に広がった万博の景色 ～多職種の支援がつないだ特別な一日～

昨年4月、EXPO 2025 大阪・関西万博が開催されました。大屋根リングや個性豊かなパビリオン、そして公式キャラクターのミャクミャクの人気もあり、会場は連日にぎわいを見せていました。

私が担当していたAさんは、脳卒中の後遺症で右半身のまひと言葉の出にくさがあり、訪問リハビリを続けていました。日常生活の自立度を高めるため、自宅周辺を歩く練習から始め、「一人で散髪に行きたい」「コンビニで買い物をしたい」といった目標を、時間をかけながら一つずつ達成してきました。普段の外出は月に数回、お母さまと近所に買い物へ行く程度で、遠出の機会はありませんでした。そんな中、リハビリ中に「万博に行ってみよう」と強い思いを話してくださいました。そこから夢の実現に向けた取り組みが始まりました。

安心して当日を迎えられるよう、数か月前から担当者会議などで多職種と連携し、ご家族も含めて準備に取りかかりました。移動手段の検討、電動車椅子の動作評価や万博までのルート確認、意思表示を助ける「コミュニケーションノート」の作成、熱中症対策や休憩場所の情報共有など、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士それぞれの立場から支援しました。スマホでのチケット購入や会場までの移動にも不安があったため、臨時の販売ブースで相談・購入を行い、会場までの事前の下見も実施しました。駅の段差やエレベーターの位置、動線、混雑状況、駅員のサポート体制、熱中症リスクなどを確認し、安心材料を一つずつ増やしていきました。折り紙でミャクミャクを作りながら気持ちを高めることもありました。

Aさんの主体的な取り組みに加えて、ご家族や各専門職と連携して準備を進めた結果、当日は体調を崩すことなく万博を楽しまれ、無事に帰宅されました。設計の仕事がされていたこともあり、大屋根リングや各パビリオンの建築に目を輝かせていたそうです。後日いただいた「万博に行って本当によかった」という言葉は、私たちにとって何よりの喜びでした。この成功体験がAさんの自信となり、次の目標が生まれる好循環の変化もみられました。

これからも利用者さんの「やってみよう」という気持ちに寄り添い、その実現に向けた歩みを支えていきたいと思います。自己実現を達成されたAさんから、私たちは大きな勇気をいただきました。Aさんの飽くなき挑戦は、これからも続いていきます。



デイケア Newsletter

『木製パズル』にチャレンジ!

最近、デイケアでは利用者さんの間で流行っているものがあります。それは「木製パズル」です!!

このパズルには難易度が1～5の計10種類あります。最初はスタッフが難易度の低い種類のものから利用者さんにお渡ししていました。「コレ何?やってみよう!」と興味を持って取り組まれる方や、「私こういうの苦手やねん」と遠慮される方もいました。ところが次第に、苦手だと言われていた方も、近くの席の方が取り組んでいるパズルを覗き込まれる姿がみられるようになりました。すると、利用者さん同士で「どうぞ」とパズルを渡され、自然にチャレンジされる方が増えていきました。

最近では、ご自身でパズルを自席にいくつも持っていき、

周りの方に配られるというほほましい場面が見られたりしています。「やっとできたー!!」「集中力はあるほうなの」「私もやってみよう!」など楽しそうな会話がよく聞かれるようになりました。

時間をかけて取り組まれた後に、パズルが解けると達成感も得られます。パズルがきっかけになり、日常生活やご自身の話などの会話につながることで、コミュニケーションの輪が広がっていくようにも思います。

これからも皆さまにとって、心地よい有意義な時間を過ごしていただけるよう、私たちもさまざまなことにチャレンジしたいと考えています!



大阪病院学会にて優秀演題賞を受賞


当院の医療ソーシャルワーカーが第23回大阪病院学会で研究発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。

発表テーマは「繋がる力～多職種連携の重要性とMSWの存在意義～」。患者さんを中心に院内外の多職種がそれぞれの専門性を生かし、連携しながら支援していくことの重要性と、その中で医療ソーシャルワーカーが担う役割について報告しました。

今回の受賞を励みに、今後も地域の皆さまとの連携を大切にし、より良い支援の提供に努めてまいります。



編集後記

Editor's note 

本号より、当院広報誌は内容とデザインをリニューアルいたしました。また、おかげさまで当院は昨年、開設20周年を迎えることができました。これまで支えてくださった地域の皆さま、関係機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

当院は回復期リハビリテーション病院として、一人ひとりの幸せな暮らしを支えるために、日々の医療に取り組んでまいりました。

新しくなった広報誌では、当院の活動や医療への思いをお伝えする場として、これまで以上にわかりやすくお届けいたします。本誌が、皆さまにとって少しでも身近な存在となれば幸いです。

これからも地域の皆さまとともに歩み、信頼される病院をめざしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員一同



牧リハビリテーション病院

〒571-0015 大阪府門真市三ツ島3丁目6番34号
TEL.072-887-0010

病院をもっと身近に感じていただくために
Instagramで
情報を発信しています！



[牧リハビリテーション病院]



[デイケア門真]

私たちの理念

PURPOSE 社会的意義

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

PROMISE 私たちの約束

「Professional」

医療人としての誇りと謙虚さを持ち、日々研鑽を重ねます。

「Heart」

あたたかい想いやりの心とともに、あなたに寄り添います。

「Team」

和をもった信頼されるチームで、あなたを支えます。



社会医療法人 **ONEFLAG**

牧リハビリテーション病院

20th Anniversary